

平成18年度知床国立公園利用適正化検討会議

第1回検討会議議事概要

平成18年8月12日 13:00～15:00

斜里町役場会議室

1. 開会
2. あいさつ 環境省釧路自然環境事務所長
新任検討委員の紹介 小川委員 中川委員
3. 議事

(1)資料説明

◆資料1「平成17・18年度検討事項について」

資料2「第1回中央部地区・先端部地区作業部会の検討内容(概要)について」

資料3「知床半島中央部地区優先検討地域の「利用適正化実施計画」骨子(案)」

事務局説明

(2)現地調査を踏まえた意見交換会

◆資料4「11日及び12日の現地調査会行程について」

現地調査スライド 事務局説明

【質疑応答】

- (座長) 中央部地区の優先検討地域、知床五湖、羅臼湖、知床連山地域について、これまでご意見を頂いているが、今日は実際に現状を見てきた各委員からご感想、ご意見を伺いたい。
はじめに羅臼湖からお願いしたい。
- (新庄委員) 羅臼湖は知床国立公園の中において、知床の自然、景観を楽しんでもらうための重要な場所だと改めて認識した。利用者は二種類あるようで、時間が限られ、装備がしっかりしていない人は一から三の沼までを一時間強の行程で帰ってきている。また一方で核心部の羅臼湖を時間をかけてしっかり楽しみたい人もいる。これら二種類を対象とした施設整備、管理運営を考える必要がある。
バス停を設ける計画があると聞いたが、今の計画位置では乗車する場所が登山口と離れているので、それに合わせた新たな歩道の検討も重要になると感じた。
- (小林委員) 現在羅臼湖の登山口へは知床峠の駐車場に停めて歩くことをお願いしているが、距離が約3kmあり、天候が変わりやすく、また路側帯が殆ど無い状態であり、何らかの対応を考える必要がある。その方法のひとつとしてバス停の話が出てきているのだと思うが、もう少し歩行者の安全性という面からも検討すべきである。新庄委員の話にも出ていたが、既存の歩道に加え、二の沼から、横断道路へ直接出る歩道を設置するというのもひとつの案として検討して頂きたい。
また木道そのものがかなり痛んできており、その補修を今後どのように進めるのが課題である。例えば金属メッシュを使うのであれば、動植物に影響の無い

ものを採用するとか、10年未満で基礎が痛んできているという状況を踏まえ、環境に影響がなく、できるだけメンテナンススパンの長い工法の検討をすることが考えられる。

(小川委員) 私が感じたこととして2点あげると、1点目として、利用者が増えている状況を考えるとトイレの問題がある。羅臼湖周辺には設置が難しいことを考えると入口に近いところを持ってきてはどうかと現地調査の際に議論になった。岩尾別ではバイオトイレがあり、方式としては電気を使うタイプだが、その他にもソーラーや風力により電気をまかなうものもあり、100人／日くらいの利用は可能なようだ。管理面では無料、有料等の検討も必要になる。これらの話はこれまで検討会であまり議論されていないと聞いているので、検討課題のひとつに加えてもいいのではないか。この話は羅臼湖だけでなく他の場所にも関係してくる。

また2点目として歩道が単線であり、すれ違い等で道の拡幅が問題になっている。林道にある待避線のようなものを設置するとか、木道であれば一部拡幅するとか、もう少しきめの細かい対応が必要ではないか。

(座長) カウンターによると今のところ最大180人／日と聞いているので、100人くらいの処理能力があるのであれば、バイオトイレの検討も可能かと思う。

(中川委員) 私は歩道について、かなり拡大しているのではないかと心配していたが、思ったほど拡大はしておらず安心した。ただ、利用者の増加を考えると拡大の恐れがあり、重要な検討課題だと思う。バス停については、小林委員の話にもあったように、利用の仕方や人の動きを考えないと問題があり、いろいろシュミレーションして検討する必要がある。

また、自然を楽しむという面から感じたことだが、横断道路の溝による走行音がうるさく、葉が茂っている今の時期でも、かなり奥まで聞こえてくる。設置にはいろいろ理由があると思うが、その効果を踏まえた必要、不必要等の再検討ができないかと思う。

(座長) 溝は、一つはスリップ防止、もう一つは西表でやっているような動物への警告上必要なのではないか。溝の件も含め確認したいことある。バス停を検討するにあたって、ガードレールがない場所に限られ、かなり離れた場所にバス停を作らなければならないと聞いたが、開発局の方からご意見頂けるか？

(釧路開建) 先生のおっしゃった役目の点から、音の鳴るのはやむを得ないと思う。ガードレールはバス停の利便性からは邪魔かもしれないが、必要な場所に設置している。細かい点は把握していないので内部で確認したい。

(ガイド協議会) 今ご意見をお聞きしていると、観光客に対して非常に親切に考えているが、基本は自然を守ることであり、多少不便があってもよいと思う。

またガイド協議会としては10人に1人ガイドをつけることを考えており、それ以

上の団体客は断っている現状にある。これは問題があり、たくさん入れれば環境に問題が生じ、制限すれば観光産業に影響が出る、これらの議論をまずはするべき。

羅臼湖のトイレに関しては、所要3時間なのだから、事前に済ませば問題ない時間である。

五湖やカムイワッカの立ち入り制限など、観光客の選択が狭まってきており、観光産業は尻すぼみの傾向にある。例えば先端部を一部開放する等分散できる方法の検討や、岬地域の一部上陸を認めるなどの検討等、表面的なものだけではない検討をしていただきたい。

(知床財団) 羅臼湖は知床にとって、非常に貴重な財産であり、羅臼湖をどう見てもらうのかをきちっと議論した上でないと、バス停だとか、トイレだとか、利用面ばかり見ていたのでは、羅臼湖の魅力が大幅に減ってしまう恐れがある。

五湖はその例のひとつで、過去の魅力はすでに失われてしまっている。

人数が大幅に増えている状況では仕方がないが、羅臼湖はまだ利用が少ない状況であり、どの程度の利用者を想定するのか、どのような環境を楽しませるのかをまず議論すべき。バス停ができれば、団体ツアーの入り込みの恐れも生じる。

(小川委員) 現地を見た感じでは、もう原始的な自然を訪れるといった雰囲気ではない観光客も多く、もし原始的な自然を楽しませるのであれば100人くらいの入場規制をかける等、今瀬戸際にあると思う。

(羅臼町) 今年、チラシで羅臼湖のアクセスについて、峠駐車場からの徒歩利用をお願いしたが思ったより効果があった。ただし、きちんと歩いている人、未だに置いている人双方がいる状況は、違法駐車が増加に戻る可能性があり、良くないと感じている。現地に看板をたて峠駐車場利用を促すのは今のタイミングだと感じた。利用レベルの検討が先かもしれないが、ある程度の抑止効果があるのではないか。

(小林委員) バスのアクセス、乗車数をコントロールすれば、利用のコントロールはできる。自由なアクセスを続ければ、コントロールは出来なくなる。バス停の設置は現実的で良い手法と思う。

(中川委員) 違法駐車される場所は柵やロープを張るなどの対策はできる。過去の利用から見てもそんなに急に利用者が増えるとは思えず、そのような対策がよいのでは。

(ガイド協議会) 柵はどうかと思う。お年寄りが多いので現実に停めざるを得ない。今の状態であれば、そのうちに停めなくなると思う。そんなに神経質にならなくとも良い。

(座長) 次は知床五湖について、委員に感想をお伺いしたい。

(中川委員) 世界遺産登録後、一番悪い意味で影響が出たのが五湖だと思う。一湖から二湖

までの間の歩道の幅が大きく広がっており、二湖周辺では昔は踏み分け程度だったものが歩道になってしまっている。特に一湖の周辺はトマツの根が踏まれ、表土が流れている。土壌の面からもともと風倒木が発生しやすい場所であり心配である。

また入口から一湖までの間はハルザキヤマガラシのような外来種が進入しており、今から対策していかないと自然植生の復元は難しい。三湖以奥の閉鎖による往復利用による拡幅の問題も平行してある。

(小川委員) 一番感じたのは、高架木道が設置されていながら、バス停を降りてからの案内が不十分で、既往の歩道に人が流れてしまう状況にある。もっと多くの人に見てもらえるような誘導の工夫が必要だと思う。

木道延長の話もあるようだが、既存の木道で終わらすのではなく積極的にそういった手法を取り入れるといった議論をしていった方が良い。

(小林委員) 改めて沢山の利用者がいることを感じたが、一番問題に感じたのは自然環境の観察の場として活用されていないのではないかとということである。自然解説のための簡易な看板などを出すべきではないか。高架木道に関しても、笹と湿原が入り交じっている植生などがあり、自然を理解してもらうための必要最低限の情報提供は必要ではないか。そうすることによって、ガイドの方々も看板以上の情報提供が必要になり、利用の質も向上する。いまの体制では不十分に思う。

もう一つ問題に感じたのは、ガイドのお立ち台の場所が歩道外に出来ていることである。外からのガイドも増えているとの話もあり、何らかのルールを作るべき。

(新庄委員) 利用を見ていて、歩道を外れないようにと言われていても、どうしてもポイントとして外せない場所や、人が集まってしまう場所があり、それを避けるために回り道を造ってしまうという現状があり、それを踏まえたデッキ施設などしっかりと整備し、環境を守りつつ、利用も楽しめる状況にした方がいい。団体利用者は急いで見るのは仕方ないが、ファミリーや個人で来ている人はビューポイントで十分楽しめる工夫が必要。

ガイドのお立ち台は他の場所の例では、三脚で植物に影響を与えにくい可搬式の物を使っている。それらを参考に知床方式と呼ばれる独自の工夫を考えたらよいのでは。

(座長) 今の意見を元に、五湖についてなにかご意見ないか。

(斜里観協) この会議において現地ガイドの声を聞く機会の必要性を感じる。五湖をどうさばくかで今後の知床の価値が決まる。様々な会議があり、ガイドの方々も戸惑っている状況にある。

(座長) 五湖について、シャトルバスの問題もあるが、それについてはどうか。

- (新庄委員) ウトロのバスステーションに、シャトルバスの案内や歓迎文がなかったのが気になった。また世界遺産登録を受け、この機会に英語表記をすべての機関で積極的に進めるべきだと思う。英語表記は地元の方々の世界遺産としての意識向上にも非常に効果がある。シャトルバスのテープ案内も英語の案内が欲しい。
- (小川委員) シャトルバスの行き先はわかっているのだから、先ほどの高架木道の案内等もう少し詳細な案内を流すなどの連携が欲しい。
- (座長) 自然センターについては何かご意見ないか。
- (新庄委員) 自然センターは世界遺産登録を受けますます重要になっていると感じた。マイカーもバスもまずは自然センターに入っているようだ。利用者は2種類見受けられ、団体の方は、トイレに直行後おみやげ屋に移動していた。ファミリーの方はきよろきよろして、何らかの情報を得ようとしていたようである。カウンターに行き、人のやりとりをすれば情報は得られるが、何らかの工夫が必要。入ってすぐに自然センターの特徴をつかめるようなコーナーを今ある物を整理してでも造るべきではないか。
みやげ物もディスプレイの工夫が必要。自然センターに求められるものがはっきりしてきた現在、整備するチャンスであると思う。
- (座長) 私もウェルカムボードのようなものがあってもよいと思う。
- (小林委員) 自然センターは立地的に一番良い位置にあると思う。自然センターに求められているのは、五湖、カムイワッカなどの各地点の現況を映像を見せて解説するなど、今知床がどうなっているかという情報を提供し解説することではないか。
- (中川委員) ウトロに道の駅が計画されているが、それとの役割分担を踏まえた自然センターの情報提供内容の検討が必要だと思う。
また今回の視察時は、ピーク時にあたるはずだったが予想より込んでいなかった。これは混んでいるという情報提供がかなり影響したのではないかと思う。利用調整にあたり、情報提供というのめかなり有効に働くということを感じた。
- (座長) 道の駅との役割分担は重要な事だと思うがどのようになっているのか。
今のうちにしっかりと考えておく必要があると思うが。
- (斜里町) その辺は十分検討をして進めている。道の駅は通常の観光客を面としてとらえた情報提供を考えており、その中のひとつとして知床についてもさわり程度を紹介することを考えている。それ以上のより専門的なことは自然センターで情報収集してもらうように考えている。
- (ガイド協議会) 今の話は、観光客がどんどん増加するという前提で話しているが、実際は避けて

通ったり、ちょっと立ち寄るという傾向が出てきている。混雑しているのと、行ける場所が制限されていること、ガイドが団体を案内していない状況が影響しているのではないかと。利用のルールを設定して、選択肢を増やす検討をするべきではないか。その辺をもう少し検討すべき。

(斜里町) 今までは情報提供の場所が自然センターに限られていたが、開発局の協力により道の駅もできることになり、少しずつ、ソフト、ハード面での役割分担ができる状態になった。町の取り組める範囲にも限界があるので、世界遺産になったという事を受け、もっと沢山の機関の協力を得て、いいものは伸ばし、替えるべきものは替えていくよう取り組んでいきたい。

(座長) 連山地域については、岩尾別登山口しか見ていないが、ご意見ないか。

(小川委員) 話がずれるが道の駅はいつ出来るのか。

(斜里町) 来年五月を予定している。

(小川委員) 岩尾別の駐車場にびっしり止まるということだが、道の駅にもそれが波及すると思う。駐車場でのキャンプがどこの道の駅でも問題になっている。その対策を考える必要があると思う。

(新庄委員) 大雪は秋が混むが、ここはどうか。

(斜里町) 秋はそれほどでもなく、七、八月が混む。

(新庄委員) 七月は一番知床が良い時期で、知床をよく知っている人が来ていると感じる。今登山道は往復利用になっているが、個人的な希望として昔のように羅臼とウトロが縦断できるような対応ができればいい。本州では似たような場所で、二種類の取り組みがあって、ひとつは送迎タクシー会社が車を送迎する方法と、もうひとつはシャトルバスを自治体か第三セクターが営業している場合がある。カムイワッカの利用を続けるなら、縦断利用を踏まえた管理、利用の検討が必要。

(小林委員) 今年羅臼側に滑落事故があったと聞いたが、登山の安全性についてきちんと対応すべき。また二つ池の問題で、登山道の拡大、野営の必要性の問題が出てきており、登山道の付け替えもやむを得ないとの話もでてきている。登山道を考える上では、自然保護の観点による利用のコントロールと、安全性の確保のための情報提供の充実の検討が必要である。特に情報提供は少なく、きちんとしたシステムを作る必要がある。

(小川委員) 岩尾別の登り口のバイオトイレはかなり離れていて使いづらいのが残念。それから携帯トイレの奨励はしているのか。

- (斜里町) 回収システムの問題や、ブース設置などの問題もあり、今は特に動いていない。
- (小川委員) 今国内で使っているのは使いづらく、海外にはもっと使いやすいものがある。
- (新庄委員) 東南アジアでは分解する袋をつかって、登山口に穴を掘って埋めるなどの取り組みもある。
これから山の自然を大切にしたいという人も出てくるし、中高年を対象とした取り組みも必要になってくると思う。本州の例を学ぶのも必要だと思う。
- (座長) トイレはいろいろなところで問題がでている。決定的なものではなく、また北海道は分解速度も遅く、なかなか難しい問題である。
バイオトイレの会社も弱小が多く、相当なお金を掛けないといい物は出来ないのではないか。
- (中川委員) 雪渓を歩くのをいやがって、新たなルートが出来ている現状もあり、登山技術、装備の情報提供が必要。
- (座長) 全体を通して、何かご意見ないか。
- (小林委員) 利用者の軽減のため、五湖への利用が集中しているこのタイミングを活かし、シャトルバスの導入を検討するチャンスである。いくつかの課題、例えば施設機能分散、車のアクセスの調整の論議を行うのにあわせ、シャトルバスの運用についても併せて考えるべき。そうすれば、サービスの仕方、情報提供の仕方も変わってくる。今のところ利用者から見れば規制ばかりが強調されており、規制によるメリットが見えていない。全体的に組み合わせて議論すべき。
- (斜里町) 先端部だけでなく、麓でのレクリエーション利用を考える中で、観光の棧橋設置などのレクリエーションと漁業の関係等、既存の規制では対応できないような海の利用に関する課題が出始めている。
今後海に関わることもポイントになると思うので検討をお願いしたい。
- (環境審議会) 知床をきちんと見て、知っていく客は少なく、通り過ぎる客が多いと思う。
日本人のいいところか悪いところかわからないが、一時的にわっと増え、ぼしゃっといなくなる。知床は奇跡的に30年持っているが、持続させるには、観光客が来ていただく際に、マイカーを使って渋滞するのではなく、シャトルバスを上手に利用していただくようにする等の検討が必要である。ウトロの道の駅ができることもあり、どのようにバスを運行するか考えるちょうどよい機会である。
また、先日峠から羅臼湖へ歩いていったが、羅臼湖は峠からのアクセスはきつく、2度とやりたくないと感じた。この点もきちんと考えなければならない。
また高架木道については、新たなルート設定について何人かにアンケートしたが、

これ以上歩くのはつかれるという意見もあったが海が見たいという意見も多かった。
そんなことも踏まえて議論をお願いしたい。

(森林管理局) 羅臼湖の話で、歩道を付け替えるとの話があったが、森林生態系保護地域のコアになっている点を踏まえていただきたい。

(斜里観光協会) 羅臼湖の利用については、利用を前提とすれば、安全を優先してできれば駐車帯でなく、停車帯が欲しいと考えている。

カムイワッカについては議論をあえて外していたが、現場では一番ホットな問題である。現在、議論が責任論になっており本質的な問題から外れている気がする。カムイワッカは知床の象徴的な場所であり、比較的簡易な装備で知床の自然にふれあえる場所だと思う。今、コア地区という表現で逃げている気がしていて、これだけ利用してきているのに本当にコア地区なのか、もう一度正面から議論すべきではないかと思う。

(小林委員) エコツーリズム協議会、カムイワッカ安全対策協議会、適正利用検討会それぞれの関係が曖昧で別々に動いている状況にあるが、適正利用検討会が上にあることをはっきりさせるべき。それぞれの関係をはっきりさせて、総合的に議論していく必要がある。

(座長) 時間なのでまとめようと思うが、小林委員の指摘にもあったように全体の動向を見て議論を進めていく必要があること、また現場の話を書く機会を設けるといって、新しい話としてトイレの問題も検討すべきなどが今日の重要なポイントとなると思う。それらを踏まえ次の検討会の議題、形式を検討いただきたい。

これからの利用者動向については増えるのか減るのかどうなるかわからないが、変わるの間違いはない。そもそもそれによってどうするのかではなく、「知床かくあるべし」という姿をはっきりさせておく必要がある。

そのかくあるべしという姿はこれまでの議論の中でおぼろげに出てきているのではないか。

従ってたとえば誘導の考え方についても、自然のキャパシティを考えて、検討を進めるのが筋ではないか。私の考えとしてはそのように思う。

4. その他

(1) 知床羅臼町観光協会の検討委員会メンバーへの参加を提案・承認

(2) 今年度入り込み状況の報告

閉会